

あの手 この手

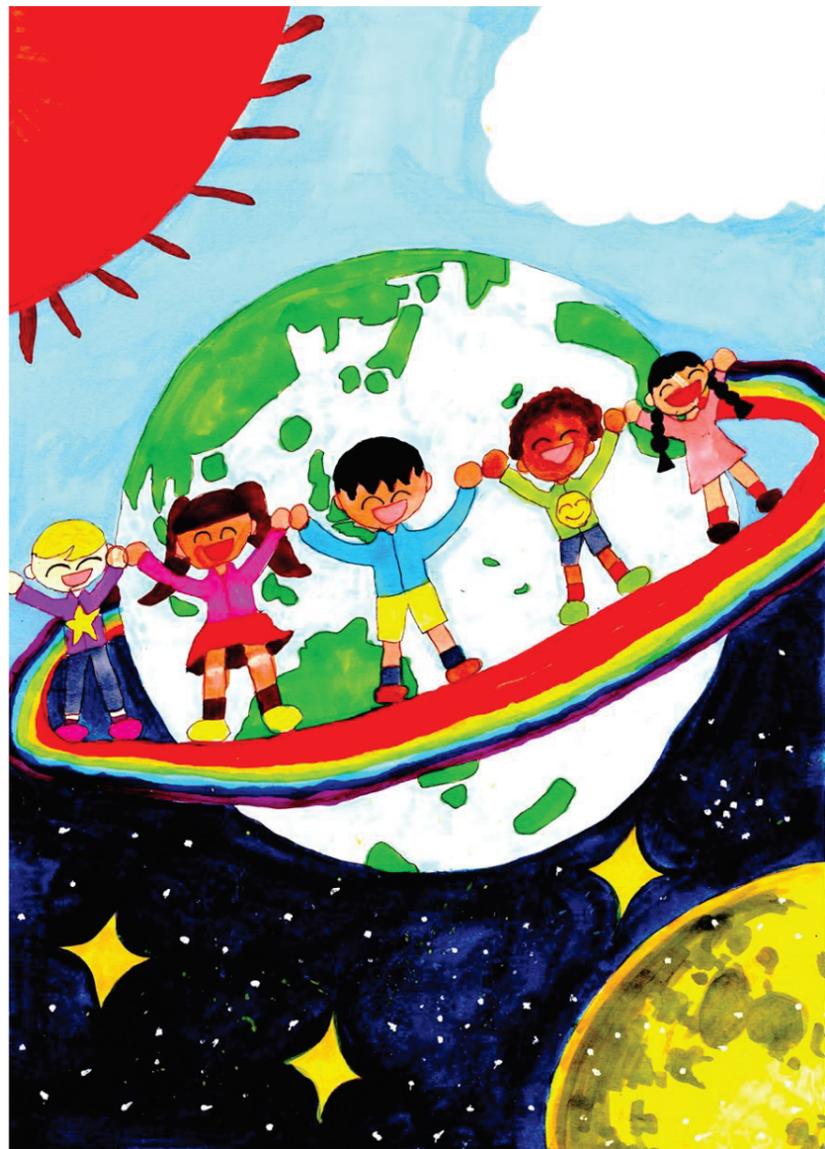
あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第171号 2021年10月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

10月号
2021



ベテルギウス玄関
10月5日の生け花



表紙絵は

9/24(金)～9/26(日)に大和市民文化創造拠点シリウス ギャラリーで開催された「やまと国際フレンドクラブ」主催2021「第14回 やまと国際アートフェスタ」入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは

～笑顔のために～

やまと国際フレンドクラブ賞受賞
加賀谷 浩志さん

下福田小学校(4年)《日本》

タイトル:「世界はひとつ」

メッセージ:世界中の子ども達が虹のような笑顔で、ひとつになって地球を包んでいるイメージでかきました。

「やまと国際アートフェスタ」は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「とくにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

 **YouTube 配信**
はじめました!
各団体紹介映像を配信中

各団体の動画を見て、うちの団体も動画で紹介したい!と思われた方はセンターにご相談ください

Instagram&Facebook



市民活動センターの情報を発信中!

FM やまと: 緊急事態宣言発出により休止していた「大和市民活動センターだより やまとっこ☆みつけた」は10/5(火)「やまと国際オペラ協会」出演回からの再開が決定いたしました。

助成金

令和4年度「キリン・地域のちから応援事業」 助成対象となる事業

- (1)子ども・子育て世代の福祉向上に関わるもの
子ども・子育て世代が主体となって実施する活動
地域やコミュニティの子ども・子育て世代を元気にする活動を応援します。
 - (2)シルバー世代の福祉向上に関わるもの
高齢者が知識・技術・経験を活かして実施する活動
地域やコミュニティの高齢者を元気にする活動を応援します。
 - (3)障害や困りごとのある人・支える人の福祉向上に関わるもの
障害のある人や困りごとを抱える人・それらを支える人(病気や困りごとを抱える人の介護者や支援者も含まれます)が主体となって実施する活動
地域やコミュニティの障害のある人や困りごとを抱える人・支える人を元気にする活動を応援します。
 - (4)地域やコミュニティの活性化に関わるもの
既存の自治活動やお祭りから一歩進んだまちづくり、新たな繋がりを創りだし地域やコミュニティを元気にする活動、共生社会を創る活動、災害復興、公衆衛生などの活動を応援します。
- お問い合わせ:**公益財団法人キリン福祉財団事務局(北村・太田)
TEL:03-6837-7013 FAX:03-5343-1093
E-mail:fukushizaidan@kirin.co.jp
HP: <https://foundation.kirinholdings.com/subsidy/r4/index.html>
期間: ~10月31日(日) 当日消印有効

令和4年度「キリン・福祉のちから開拓事業」 助成対象となる事業

- 障害者福祉分野、高齢者福祉分野、児童・青少年健全育成分野、地域社会福祉分野のボランティア活動を、長期的な視点に立って全国や広域にまたがり実施している、または活動しようと考えている次のような団体に対して助成します。
※ここでの「ボランティア活動」は、自発的・自主的・利他的に行われる無償の活動を指します。
- (1)障害者の福祉向上に関わるもの
 - (2)高齢者の福祉向上に関わるもの
 - (3)児童・青少年の福祉向上に関わるもの
 - (4)地域社会の福祉向上に関わるもの
- 上記の、社会課題・問題を直接解決するための取り組み、啓発活動、政策提言やアドボカシー、ネットワークの構築・拡大、組織強化、人材の育成、技術や技法の研究、実践のための調査や研究、モデル化、生活環境をより良いものにするための保全・保護活動、等が対象です。
- お問い合わせ**
公益財団法人キリン福祉財団事務局(北村・太田)
TEL:03-6837-7013 FAX:03-5343-1093
E-mail:fukushizaidan@kirin.co.jp
HP: <https://foundation.kirinholdings.com/subsidy/r4/fukushi.html>
期間: ~10月31日(日) 当日消印有効

2022年度日本郵便年賀寄付金配布団体を公募いたします。

年賀寄付金は、10の事業分野を対象に配分助成を実施しています。配分が決まると、活動支援や施設改修、機器購入、車両購入などを用途として最高で年額500万円までを助成いたします。

事業分野

- 社会福祉の増進
- 非常災害時の被災者の救助・災害の予防
- がん、結核、小児まひその他特殊な疾病の予防
- 原子爆弾の被爆者の治療その他の救助
- 交通事故、水難の救助・防止
- 文化財の保護
- 青少年健全育成のための社会教育
- 健康の保持増進を図るためにするスポーツの振興
- 海外の地域からの留学生、研修生の援護
- 地球環境の保全

お問い合わせ

HP: https://www.post.japanpost.jp/question/contact_us/csrmmail.html (お問合せメールフォーム)
TEL:03-3477-0567
HP: https://www.post.japanpost.jp/kifu/topics/r030831_01.html (日本郵便 HP)
期間: ~11月5日(金) 当日消印有効



お問い合わせ



日本郵便

地域ささえあい助成 日本コープ共済生活協同組合連合会

本助成制度では、「生協」と「生協以外の団体」が「協働」しておこなう活動を支援します。異なる組織どうしが、思いを共有し、それぞれの持つ強みを生かして協働することにより、単独では成しえない成果を生み出すことを期待しています。

「生協以外の団体」とは生協以外の非営利法人(協同組合、社団法人、公益法人、NPO法人、中間法人、社会福祉法人、学校法人等)、市民団体、任意団体等をいいます。法人格の有無は問いません。※上記であっても、反社会的勢力に該当する場合を含む、当会所定の応募不可団体に該当する場合は除きます。

「協働」とは受託・委託の関係ではなく、活動の目的を共有したうえで、それぞれの強みや資源を生かして役割を担い、それぞれの関わりの範囲で活動の経過と結果に責任を持つことをいいます。たとえば・・・フードバンクが生協の店舗や宅配ルートを活用したフードドライブの実施、生協が社会福祉協議会のネットワークを通じて地域の子育て世帯の状況を把握し、居場所づくりに生かす、ボランティア団体が生協をトライアル雇用の場として活用し、就労支援に生かす

協働に関するお問い合わせ・ご相談先

TEL:03-5778-8135 E-mail:chiiki-comm@jccu.coop
HP: <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>
期間: 10月15日(金)～11月5日(金) 当日消印有効



大和市民活動センターは「大和市民新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第171号 発行日: 2021年10月10日

発行: 大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター < 閉館日 月～土 9:00～18:00 >
< 休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日 >
〒242-0018 大和市長見西1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
<http://www.kyoudounokiyoten.com/>

ウイズコロナ、ポストコロナの時代
市民活動、NPO 活動、社会貢献活動はどうあるべきか
先駆の人を訪ねて 第2回

「何気にさらっと行動したら、援軍がずっとやって来て どんどんつながり、次のステージへ その2」

田代美香さん（認定非営利活動法人ぐらす・かわさき副理事長）
（府中市市民活動センタープラッツ統括）



多くの都道府県に「緊急事態宣言」が発せられたり、「まん延防止等重点措置」が適用され、必要であるはずの意志ある活動ができず、出口も見えない状況となっています。

このような中、市民活動に想いがあり、実践を積んできた熱い方々を訪ねて、エールをいただくこと、前号から連載を開始をしました。

第2回は、田代美香さんインタビュー後編です。

— 「ぐらす・かわさき」の顔とも言うべき、現在の拠点となっている「メサ・グランデ」についてお話を伺いたいと思います。

いわゆる成功事例としての「メサ・グランデ」の開設

わたしたちは、市民活動の中間支援なんていう一般の人からは分かりにくい抽象的なことをやってきました。いわゆる目に見えて分かる成功事例みたいなものをやってきてない。やっていかないと説得力がない。でも、中間支援事業全体をビジネス化するのは難しいと思ったので、その中の小さな事業だけど、コミュニティカフェは「回せるかもしれない」と思って、「メサ・グランデ」（スペイン語で大きなテーブルという意味。大きなテーブルを囲んで、食を楽しみながら地域や人がつながるといふ想いが込められている）を作りました。



ここ「遊友ひろば」と「メサ・グランデ」と二拠点事業になりましたが、登戸の区画整理事業がどんどん進んで、「遊友ひろば」周辺は、ずっと工事が続いて落ち着かない状況になったので、「ぐらす・かわさき」の法人としての拠点は、「メサ・グランデ」に移すことになりました。

「メサ・グランデ」は2016年から、障がいのあるひとたちの日中の居場所である、「地域活動支援センター」の運営を開始していますが、来年から「就労継続支援B型」に移行する予定です。



田代さんを訪問させていただいた日、「府中市市民活動センタープラッツ」の御名刺を頂きました。その名刺の裏面を帰宅してから確認して、田代さんらしいとニンマリしました。以下記載内容です。出身地：高知。趣味：石鹸作り（キッチンソーパー）、コミュニティカフェめぐり、畑仕事、山仕事。言語：標準日本語、土佐弁（母語）、スペイン語少々。世が世なら、龍馬の姉の乙女さんみたいな人だったのかなあ。日本酒の話は聞き忘れました。残念!!（聞き手は引き続き、当センターの望月則男と船越英一）

— あまり、障がい者福祉を標榜した地域活動支援センターというイメージは「メサ・グランデ」にはないんですけれど。

多様な人たちの居場所になった、そして地域活動支援センターへ

「メサ・グランデ」は最初から、地域活動支援センターではなく、地産地消の食の拠点かつコミュニティビジネスの拠点とかワンデーシェフといった形で、土日夜間に使っていただくという目的でスタートしたんですけど、カフェとして居心地がよいのか、昼間障がいのある人たちがお客さんとして来て賑わったり、会員の打ち合わせ場所として結構使われていました。

「メサ・グランデ」のある武蔵新城地域は、南武線の真ん中付近にあるということで、福祉施設も多いんですよ。そういう作業所から実習を受け入れて欲しいという依頼も、「メサ・グランデ」の設立当初からたくさんあって、拒まず受け入れてきた積み重ねがありました。

そうこうしているうちに、「私たち結構できるじゃん、じゃあ直接やった方がよくない？その方がお金もつくし、経営も安定する」ということになって、市に申請して、「地域活動支援センター」になったんです。

— 「ぐらす・かわさき」の活動はすごいですね。クリエイティブで、商店街や大学と連携して、地域と密着している感じがすごいです。そして、田代さん個人はすごくチャレンジングですね。一つクリアしたら、もう次に行ってる。そんな田代さんが、川崎から府中へ活動の場所を移された理由はなんですか？



川崎で、ひと通りやったよね。今度は府中の立ち上げをやってみよう

そうですね、なんか、ちょっとずつプラス5%、10%と別の世界に出会うと、そっちに惹きつけられていくみたいな自分がいて、川崎での仕事が自分の中でルーティンになってしまったというか、私のやり方はマンネリではないか、法人にとってそれでいいのかっていう気持ちは少しありましたね。

それで、「メサ・グランデ」も軌道に乗って来たので、地域活動支援センターとして、それはそれでスタッフに任せれば、安定走行するだろうと思えたのが一番大きいです。

「ぐらす・かわさき」の設立メンバーは、団塊世代が多いんですけど、少しずつ現役から離れていって、「ひと通りやったよね」みたいな感じがあって、設立当時の想いの熱量を10年、20年とずーっとキープするのは難しい。うちだけじゃなくて、2000年頃に設立された団体が、10年、15年、20年と経つうちに、だんだん閉じていくのを結構見て来ました。

「後継者がいない」、「社会課題がある程度解決された」という理由があったと思うし、「ぐらす・かわさき」の設立時の課題意識、目的意識もある程度は達成されたんですよ。

そんな中、私は第2世代として事務局局長を10年近くやってきましたが、ちょっと一旦引かせてもらうことにしました。役員としては勿論残って、意見も言って、やれることはやるけど、一旦ほかのところも見てみたい！そのうえで「ぐらす・かわさき」の今後のあり方を見つめてみたいと思いました。

私は、民設民営の中間支援しか知らなかったの、公設のところにも興味がありました。ちょうどそのタイミングで、府中市市民活動センタープラッツをNPO法人エンツリーという団体が受託して、指定管理で受けているんですが、その立ち上げ時期で、そのメンバーに加わることができました。

「エンツリー」は八王子のNPOで「ぐらす・かわさき」とちょっと似ているんですよ。子育て支援の広場や女性の起業支援を主にやってきていて、発足からの年数も近かった。

府中に風を起こした。すっごく斬新な感じ

「エンツリー」は多摩地域でコミュニティビジネスの支援をずっとやってきた団体で、共感するというか、私の考え方とか、やってきたことに非常に近くて。

そのNPOが芸術劇場や郷土博物館の運営などをする府中文化振興財団とジョイントベンチャーを組んで指定管理者になっていて、ソフト部分を担っています。

でも、私たち、「エンツリー」が「プラッツ」の指定管理を取ったのは、結構これまでの既存の運営に風穴を開けた感じがあります。全然地縁組織ではないし、府中市民のスタッフもいるけど、よそ者の集まり、いわば「外国人部隊」と言えるかも。市民活動をやってた人もいて、みんながいろんな経験・ノウハウを持ち寄ってやっているの、すっごく斬新な感じですよ。

「プラッツ」は大学生をはじめ、若い職員でいっぱい

指定管理を受けて、5年目に入ったところで、もうすぐ第2期に向けプレゼンです。この4年間でやりたいことをやれて、面白かったです。



「プラッツ」では、オンライン系の事業は多くて、オンラインサポーター養成講座とかをやったり、「まつり」もオンラインでやっています。

職員には20代、30代の職員も多くて、大学生の職員もいます。そういう若い人を中心に、LINEに許可を得て、「市民活動団体のためのオンライン生活超入門編」といったLINEをはじめてつかう人にもわかりやすい、LINEの画面入りマニュアルをつくったりもしています。

— ウイズコロナの時代ですが、どんな影響がありますか？またどんなことが大切でしょうか？

地域で過ごす時間が増えて、プロボノが増えた必要なのは、やりたい人を活かす受け皿づくり

「遊友ひろば」でやっていた健康麻雀なんか、今年になってからやめてるんですね。直接の参加者を集めるような事業ができない。そんな中で、そうだな、無駄な会議が減ったのがよかった。集まればなんかアイデアが出るだろうっていうそういう風潮は減りましたね。私もそうですが、地域の中で過ごす時間が世の中の的に増えてきているので、地域の活動に興味をもってくれる人が増えてきたように思います。

特に、府中での活動では、*プロボノに注目しています。「地元で活かす、あなたのスキル」というキャッチで、プロボノ登録したい人を募集したら、驚くほど興味を持ってくれてびっくりしました。そういう人たちをうまくマッチングする受け皿づくりをして、意思ある人を活かしたいですね。

— 最後に、ご自身のライフワークとポストコロナの時代に向けてメッセージをお願いします。

市民活動、ソーシャルビジネス、福祉等、多方向からのアプローチを知り、伝えたい

私のこれからのなんですけど、今、社会福祉士の資格取得のための勉強をしています。これまで、自分がやってきた市民活動的なアプローチや、ソーシャルビジネスからのアプローチとはまたひと味違う福祉分野からのアプローチ、生活支援コーディネーターであるとか地域包括的な施策とその結果もたらせるものって、狙っているところはすごく近いと思っています。

多機関連携や地域資源のコーディネートや開発など、福祉的言語は市民活動の境界ではあまり聞きません。でも、現実には、同じ所へアプローチしているように感じます。

市民活動、ソーシャルビジネス、福祉といった縦割りを崩すようなコーディネーターを目指したいですね。

*プロボノ 各分野の専門家が、職業上持っている知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動全般。また、それに参加する専門家自身